

福島第一原子力発電所現地確認報告書

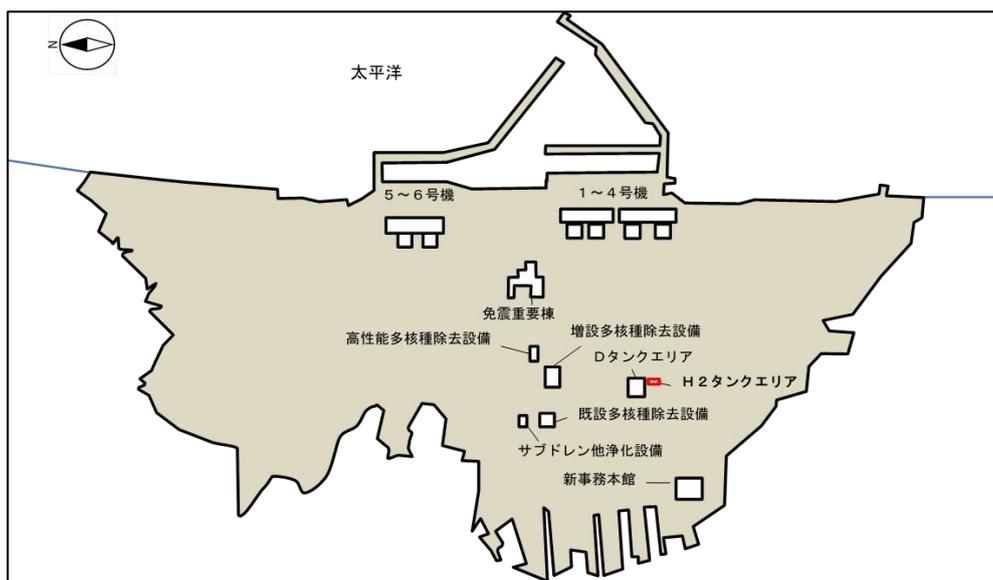
- 1 確認日
令和4年8月24日（水）
- 2 確認箇所
H2タンクエリア鋼製横置きタンク
- 3 確認項目
濃縮廃液の保管状況

4 確認結果の概要

東京電力は、事故直後、RO濃縮水を蒸発濃縮装置によって淡水化处理し、炉注水として利用していた。その際に発生する高濃度の放射性物質を含む濃縮廃液には濃縮水と沈殿物（炭酸塩スラリー）が含まれ、H2タンクエリアにおいて鋼製横置きタンク（ブルータンク）（計100基）に貯留されていた。その後、上澄みである濃縮水はDタンクエリアの溶接型タンクに移送され、高濃度の放射性物質を含む炭酸塩スラリーはH2タンクエリアの3基のブルータンクに集約されて貯留されている。

本日は、H2タンクエリアのブルータンクの現況を確認した。（図1）
（写真1）（前回確認日：令和3年2月8日）

- ・ブルータンクは前回同様、遮蔽壁で周囲を囲まれており、上部には屋根が設置されていた。また、遮蔽壁とブルータンクの間にはコンクリート堰が設けられていた。（写真2）
- ・エリア中央部では、ブルータンク下部を囲うように遮蔽材が設置されていた。（写真3）
- ・目視で確認した範囲でブルータンクの表面には錆が発生する等劣化が見られるものの、貯留物の漏洩等の異常は見られなかった。（写真4）



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



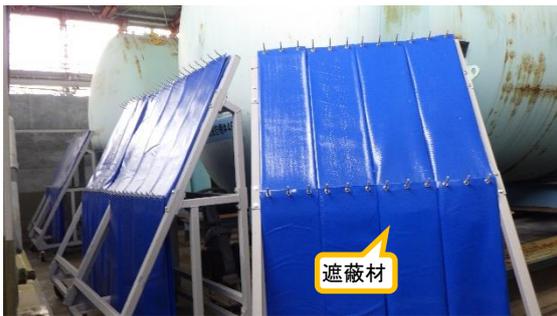
(写真1)
H2タンクエリアブルータンク設置
箇所の外観



(写真2-1)
遮蔽壁の周囲の状況



(写真 2 - 2)
遮蔽壁内の状況



(写真 3)
エリア中央部の状況



(写真 4)
錆が発生したブルータンクの例

- 5 プラント関連パラメータ等確認
本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。